



# 浦島伝説

平成30年12月4日

第27号

## “人として、どう生きるか”を学んだ 浦島デーで12月スタート!

「第2回浦島デー」とともに、12月が始まりました。200人を超える保護者の皆様に、ご参加をいただき、ありがとうございました。

5校時は、道徳（1・3年生）と人権学習（2年生）の公開授業、6校時は講演会を行いました。

“人としてどう生きるか”という共通のテーマについて、生徒も、先生も、保護者も、共に考えを深め合う一日となったのではないのでしょうか。



講演会では、竹内昌彦（たけうち・まさひこ）さんが、

「私の歩んだ道一見えないから見えたもの一」

という演題で、ご自身の体験を語っていただきました。

竹内さんは、小学2年生で視力を失いましたが、盲学校を卒業後、障害や差別に負けず大学に進学しました。教師として岡山盲学校に長年勤務し、退職後は、ヒカリカナタ基金の理事長を務めながら、途上国に住む盲目の子供たちの支援を続けられています。

“人としてどう生きるか”竹内さんの言葉や生き方から深い感銘を受け、大切なことを学ぶことができたという感想が、たくさん寄せられました。（裏面に感想掲載）

### 竹内昌彦さんの言葉より

- ◆ 見た目で見ると失敗する。
- ◆ 自分の命は自分だけのものではない。
- ◆ 「ありがとう」と言われた経験をたくさんしよう。
- ◆ しっかり勉強しよう。
- ◆ 「立派な人」というのは、自分を生かし、周囲に喜びや幸せを与えることのできる人。



## 「肉もっそ」いただきます!~給食試食会

今年の給食試食会には、37人の保護者の方がご参加くださいました。今回のメニューは、肉もっそ、ねぶとのからあげ、切干大根のごま酢あえ、ふしめん汁、柿、牛乳でした。



## ●竹内さんの講演を聞いて ～生徒・保護者の感想より～

### 【生徒の感想より】

- 竹内先生のお話から一番大切だと思ったことは、「自分の命は自分だけのものではない」ということです。私の父や母も「子どものためやったら」と思って今までたくさんのことをしてくれました。だから私もすごく温かい家庭に生まれて良かったなあと思いました。死にたいと思うのは一番弱くて負けなので、今を大切に生きようと思いました。悩んだときは、我慢しない！自分を支えてくれた人もいるし、自分が支えた人もたくさんいることに気づいたので、ここに書ききれないくらい教えてもらったことを胸に、大切な自分とみんなの命を大きく育てていきます！
- 講演を聞いて、竹内さんの人生に感動しました。ちゃんと生きて、生まれてこられたことのありがたさを感じることができました。いつも親に反抗してばかりだけれど、親のおかげでここまで大きくなれたことに心から感謝したいです。これから、たまには手伝いをしたり、大変そうなときには手助けしたりしていきたいです。竹内さんのお話を心にとめて、これからの人生に役立てていきたいです。そして、優しい心をもてる人間になりたいと思いました。

### 【保護者の感想より】

- 当たり前ではない。今、何不自由なく生活できていることに感謝して、これからはしっかりと見て、前に向いて進んでくれるといいなと思います。貴重な話に感涙しました。子どもにも思いが届いていると思います。ありがとうございました。
- 子どもに「この親から生まれてきてよかった」と思われる親にならないと……と思いました。
- 竹内さんの話の後半、すごく心にしみました。親は我が子のためなら……。いじめられたら我慢するな。声を出して訴えろ。死を選ばず、生きていたら絶対いい事がある。もっと早く、子どもに聞かせたかったです。
- 親を泣かせないように、強く生きようと信念を貫いて生きてきた竹内さんの言葉には魂がありました。人の役に立てたときの喜び、周りの人の支えなど、豊かな人生を送られたご経験を聞くことができ、感銘を受けました。
- 目の見えない方への声のかけ方や案内のやり方が、実演付きでよく分かりました。
- とても心に残るお話でした。周りの人に優しい心で接することができるように。強く、優しく、すばらしい方でした。



講演会（浦島デー）の反響が大きく、講師 竹内昌彦さんの著書『見えないから見えたもの』に関する問合せが、多数、寄せられています。

購読ご希望の方がございましたら、以下の注文票にご記入の上、代金を添えて、中学校までご提出ください。取りまとめの上、竹内さんに連絡を取らせていただきます。

【申込×切 平成 30 年 12 月 6 日（木）】



### 注 文 票

◎竹内昌彦著『見えないから見えたもの』（1,500 円）を注文します。

（ ）年（ ）組

生徒氏名（ ）

保護者署名（ ）